

はじめに

とても充実した、貴重な経験をさせていただいた二日間だった。まずは今回の東京研修に関わってくださった全ての皆様に感謝したいと思う。本当にありがとうございました。

(1)ディレクトフォース

まず基調講演として近藤玄大さんからお話をいただいた。近藤さんは自身が左利きであること、幼少期をアメリカで過ごされた経験から、環境と自分との間に障害を感じる気持ちを理解し、個人のための義手作りをされている。講演の全てが貴重な時間であったが、特に印象に残っているのは「肌色の義手で障害があるのを隠すのではなくて、手がないという個性を生かす義手を届けたい」というお話だ。義手を安くかっこよく。電子カードを入れたり、電話の機能をつけてみたり、生の手ではできないことをできるように。モノというメディアを使って、手で表現できるように。近藤さんの言葉はひとつひとつに温かみを感じられた。小学生の頃、道徳の時間では困っている人は助けてあげましょうと習った。これはとても大切なことだけれど、なんだか上から目線な言葉に聞こえて、違和感を感じたことがあった。障害のある方が障害のない人と同じように過ごせるように。そういう考えで作られる福祉施設も重要だとは思うけれど、障害のない人の基準で物事を考えていくのは少しおかしいと思う。口だけではなくて、近藤さんのように心から障害を個性だと尊重できる社会になっていけば、いろいろな人にとって生きやすい世界になるだろうなと感じた。そして、私自身もそういう考えで生きていけるような大人になりたい。

次に笹川平和財団の講師の方から、グループ毎にお話をいただいた。私は 3 人の講師の方のお話を聞くことができたが、どの方も共通して海外での仕事を経験されていた。海外で働く際に大切なことは、と質問させていただくと、どの方も話題を作る力、とおっしゃっていた。そのためには英語力はもちろん、それに加え自分が胸を張って話せる専門分野を持たなければいけない。言葉も文化も違う環境で育った人とも話せるように、様々な経験をして、人間としても成長できるよう努力したいと思った。

(2)企業・大学訪問

私は外務省を訪問させていただいた。これから東京の企業を見学する機会なんてなかなか得られないだろうから、東京にしかない省庁、特に興味のある外務省を訪問したいと思ったからだ。

はじめに、担当の方から外務省についての説明をいただいた。特に驚いたのは、外務省では 2、3 年で自分の担当部署が変わる、ということだ。今日本で働いていても、2 年後には海外の大使館にいるかもしれない。このシステムはひとつだけに詳しくなるのではなく、

外交に関する全ての分野を知ることで全体像を理解するために行われているようだ。

次に、現在国連政策課で働いていらっしゃる二高の卒業生の方に質疑応答をさせていただいた。外交官になることが小さいときからの夢で、それを実現するために東京大学に進学され、外務省に就職された。世界全体と関わるときに意識することは、日本とは全く違うということを理解することだそうだ。最近、TICAD というアフリカ開発会議がケニアで行われ、そのときに時間に対する意識をはじめとする小さな問題がたくさん発生したらしい。日本人が何時何分からこれを始めよう、と説明するとケニア人は「そこまでやる必要があるのか」と。こういった文化や育った環境の違いから生まれる価値観の違いが当たり前にあることを、分かるのではなく理解して、それでも仕事ができるように相手と意見をすり合わせる柔軟な姿勢が大切だとおっしゃっていた。分かるのではなく理解する。シンプルだけど難しいことだと思う。表面的ではなくて根本から、違いがあることを認める。これは近藤さんのお話にも通じることだ。世界の中で働くためにはこの思考が、様々な面で求められるのだと強く思った。

(3)OBOG 座談会

私は、二高を卒業され、東京大学に進学された四人の方とお話をさせていただいた。勉強だけでなく高校生活についてもアドバイスをいただき、本当に貴重な時間だった。当たり前だが、四人の方がそれぞれの経験をされていたので、たくさんの意見を聞くことができた。二高で一桁の順位をキープできれば東大には受かる、というお話には驚いたけれど、実際に皆さんに教えていただいた順位はそうだった。毎日何時間も勉強ばかりしていたのではなく、授業についていくこと、学校の課題を完璧にすることが大切らしい。また、周りが当然に勉強する定期テストも、記憶力が主に求められる模試もどちらも安定して成績を取ることができる人が現役で受かるという体験談はとても参考になった。超人的な能力がなくても東大を目指せるということ。どの方もおっしゃっていて、なんだか感動した。高校生活については、とにかくいっぱい楽しむべき、何かに打ち込むべき、というお話だった。もういいってくらい楽しんだら勉強にシフトできる。自分は楽しくない高校生活だったから楽しんでほしい。それぞれの方から言葉をいただいた。自分はどうかろう、と振り返ると、高校生活に楽しさはあまり感じていない。今だけに体験できること、今だけに考えられること、今だけに感じられる気持ちを大切にできるように、楽しめるように頑張りたい。

また、ある方のお話で印象に残ったことがある。自己紹介に必要な N2SF というお話だ。自分が今何をやっているか、自分の強みを二つ、そして将来の夢。これは自分のことを知らないとはっきり語れないこと。自分のことを知れば、自分が何をしたいのか、自分がどういう勉強をしたいのかが分かってくる。そうすれば必ずと行きたい大学、つまり進路も見えてくる。目標が見えれば、やることもはっきりする。適切な努力ができる。こうやってひとつひとつ明らかにしていけば、自分に自信が持てるようになる。そうすれば迷わな

い。私も、先輩のように自分に誇りを持って大学生になれるように、時間のある今、自分としっかり向き合おうと思う。そして何をやりたいのか、本当にその進路でいいのかを吟味して、目標に向かって進んで行きたい。

(4)東京大学見学

まず、主に1、2年生、教養学部の学生が通う駒場キャンパスを見学した。東大の学生団体 Fairwind さんの企画により、キャンパスの見学とプレゼンテーションの拝聴、ワークショップを行った。駒場キャンパスは初めて行ったので、見学できて嬉しかった。東大生の生の雰囲気を感じて、東大生のプレゼンテーションを聞いて、東大のことをよく知れたと思う。

お昼過ぎには本郷キャンパスに移動し、有名な赤門を通ることができた。今年、五月祭を見に行っていたので二回目にはなるが、文化祭とは違って普段の東大を見ることができた。個別相談会では、文系の方のお話を聞き、東大に目指したきっかけなどを教えていただいた。ここでも思ったことは、東大生は特殊ではないということだ。一回見ただけで全部覚えてしまうような、いわゆる天才ももちろんいるだろうし、そういう人は勉強も楽かもしれないけれど、天才でなくても努力した結果東大にいる、そんな人がたくさんいて、やっぱり感動した。

模擬授業では、実際の法学部の授業を体験することができた。法学部は勉強量が格段に多いと聞いていたので、大変そうだなとは思っていたが、配られたテキストの文章量の多さには驚いた。私は理系を志望しているので、研究室訪問も行きたかったが、授業の様子を知ることができてよかった。全体を通して、本物の東大生を知れたように思う。

おわりに

あっという間の二日間だった。たくさんの方から様々なお話をいただき、自分の価値観が広がっていくような時間だった。印象的だったのは、様々な立場の方が共通した意見、アドバイスをくださったことだ。きっと大事なことは単純で分かりやすいけれど、実行することが難しいのだと思う。そして実行できた人が成功する。この成功というのは、社会的なことだけではなく、自分のやりがいに見合うような今を生きられているかということ。自分はどうかと振り返る。高校に入学して、慣れないことがたくさんあって、もう半年が終わってしまった。これからできること、やらなくてはいけないことを考える。自分がどうしたいか、どんな大学に行きたいか、どんな大人になりたいか。今までひとつしかないと思っていた進路に、たくさんの可能性が出てきたように思える。私はまだ高校一年生で、もう高校一年生だ。まずは目の前の高校生活を悔いのないものにして、全力で駆け抜けたい。その先にある大学生としての自分にも満足できるように、今できることをこなしていこうと思う。

最後になりますが、このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

した。今回得たものすべてを生かして、今後の自分につなげて行きたいと思います。お会いした素晴らしい先輩方のような二高生になれるよう、自分も努力して行きます。

返信

全員に返信

引用して転送

添付して転送

再編集

ソース表示

ソース保存

テキスト保存

印刷